



FLOAT

飛んでいる・・・たしかに飛んでいる。
 あたりは真っ暗な森の中だ。目の前にぐんぐん木が迫ってきて、今にもぶつかりそうになる。
 僕の身体はほとんど地面すれすれに浮かんでいる。
 こんな、飛んでいるとは言えないだろう？ 考えていたのと全然違うじゃない！
 でも、たしかに僕は今空を飛んでいる。小さい頃から一度空を飛んでみたいと思ってた。
 僕はまるで腰から宙吊りにされた操り人形のように、暗い森の中をふらふら飛んでいる。
 膝を曲げていないと、うっかりすると足が地面に着きそうになる。
 まるで水中を犬掻きでもしてもがいているみたいな格好だ。なんて格好の悪い・・・
 とても人には見せられない格好だ。
 格好悪くてもなんでも、ともかく迫ってくる木や葉っぱをよけながらどうにか宙を飛んでいる。
 色んなものが迫ってくる様子からするとかなりのスピードは出てるようだ。
 暗さとスピードに目が慣れてくると、足元に小道があるのが見えてきた。
 どうやら小道に沿って僕は飛んでいるらしい。こんなじゃ歩いた方がよほどいいな。
 あ・・・足をウサギが横切って行った。小石や羊歯や、よくよく見ると結構面白い眺めだ。
 ふ～～ん。慣れてみるとこれも悪くないかな。
 あ、坂道だ。あれれ？ ああ！？ 落ちて行く・・・せっかく飛んでいたのに、
 あ～～あ、落ちた！ お尻がイタイ・・・

LIVE

6/16 Sat. pm 7:30

ミルクホールのライブ、始まりました。

湘南の波の音、風のささやき。
 自然を肌で感じ、素直に歌にする。
 安らぎと優しさ、心地よい響きが聞こえてくる。
 中空をやんわりと浮遊するような感覚で
 感じて下さい。

HALF MOONの音楽は愛と平和を歌います。

by
 琢磨 仁 (Jin Takuma)
 琢磨 啓子 (Keiko Takuma)

COLUMN

鎌倉の猫事情 第十八話

我が家にグーニー君が住みつくようになる少し前から、ミルクホールのお店の前から小町通にぬける裏路地で、人相(?)の悪い、ふさふさとした灰色の毛並みをした顔の大きな猫が、不敵な目付きで歩きまわり始めたのに気づいていました。その路地は、数年前は白黒の斑の品の良いマリちゃんという名の猫の領分だったのですが、マリちゃんはとくに姿を消しており、近頃ではその顔の大きな猫が灰色の毛並みを誇らしげに闊歩するようになっていたのです。猫に聞いてみないと確かなことは判りませんが、猫にとって顔が大きいという事は、どうも重要な要素だという気がします。このあたりでも昔からボス面をして君臨しているのは、たいてい顔の大きな猫に違いないです。その灰色猫は、顔の大きさといい、小さめではあってもなかなか性根のはいった目といい、がっしりとした四角い体つきといい、ボス猫としての風貌に不足はないと思わせるものがあります。彼は、常にまわりに不穏な空気を撒き散らして歩いています。我が家のグーニー君もいつの日か、彼との対決を避けては通れないだろうという予感がありました。その当のグーニー君、まだまだ、目下の強敵は部屋の中をうろうろ飛びまわる蚊と、蠅、果敢に追いつめては最後にパクリと食べて満足そうにしています。その姿を見るにつけ、彼に必ず訪れるだろう試練の時を想像して薄ら寒い恐怖感すら覚えたものでした。対決の日はその遠い事ではないはずなのです。

WANTED

to be continued

4月12日に誕生した小猫ちゃん達6匹の内5匹まで、里親になって下さる方が見つかりました。本当に有難うございました、まだ1匹可愛い小猫ちゃんが里親希望の方をお待ちしております。

